

令和7年度 金沢市森づくり市民会議（第1回）

日 時：令和7年7月1日（火） 13時30分～15時00分

会 場：金沢市役所第二本庁舎2階 2201会議室

出席委員：大河原委員、河崎委員、喜多委員、北村委員、黒氏委員、小杉委員、
近藤委員、澤田委員、西多委員、前委員、柳井委員、横山委員

事務局：紙谷農林水産局長、青山森林再生課長 ほか9名

【次第】

1 開 会

2 挨拶

3 委員紹介

4 会長選出

5 議 題

（1） 令和6年度森林再生施策の実施報告および令和7年度の取り組みについて

（2） 次期・金沢の農業と森づくりプランについて

（3） 森と市民をつなぐ拠点施設の活用について

6 閉会

【議事録】

事務局より説明

（1）令和6年度森林再生施策の実施報告および令和7年度の取り組みについて

（会長）

議題1について意見はないか。

（委員）

特用林産物の品目数について目標5品に対し2品となっている。タケは加工性が高く様々な用途に使用できるが他に無いのか。

併せてクマの緩衝帯整備について、さらなる個人所有地への実施呼びかけは行わないのか、また整備町会数が25となっているのは増えないのか。

（事務局）

特用林産物としての計上は商標登録まで済ませたものに限定しており、現状は百万石シイタケ、金沢ギンナンの2品目である。生産者をまとめて販売に至るには課題が多く結果的に少なかった。昨年度は新たに市内の地域団体などとサンショウを用いたレシピづくりなどを実施しており、今後はさらに地域振興につながるような展開としていきたい。

クマの緩衝帯整備については年2回実施している。実施町会については毎年度当初に市内80町会へ声かけを行い、実際に実施している町会が25町会となっている。地元町会を通じて実施したほうが、所有者の確認や声かけがスムーズであると考ええる。

(委員)

クマの緩衝帯整備事業は町会としても有用である。近年は里山にクマが生息していると感じる。また市でクマの監視カメラを設置していると聞くと、その結果は。

(事務局)

ご指摘のクマの監視カメラや石川県立大学との共同研究により里山にクマが生息していることは承知している。カメラについては映る頻度が低いことと、24時間監視体制を構築するのは困難であるため、運用については検討課題である。やぶ刈り以外にも放置果樹撤去を対象にするなど徐々に改正している。

(委員)

クマのやぶ刈り補助とはどのようなものか。

(事務局)

除草は25万円/haが年2回、放置果樹撤去は1万円/本で年間最大10本まで、又放置果樹については昨年度拡充し一本あたり三分の二で上限20万円というメニューも作成した。

(委員)

町会ごとの対応状況はどうか。

(事務局)

クマの出現頻度で大きく異なる。以前クマの出没頻度が高まった町会では、町会総出で実施する体制を整え広範囲での緩衝帯整備を行ったため出現頻度が低下した、またそれを見た近隣町会でも同様の対応を取り始めており、良い影響が周囲に波及していると感じている。

事務局より説明

(2) 次期・金沢の農業と森づくりプランについて

(会長)

議題2について意見はないか。

(委員)

製品と素材価格推移の通り、製品価格が上昇しても素材価格が上がっていないのが実情である。素材を生産する山主へ返金する価格が変わっておらず、利益配分が進んでいない。主伐を進めるには作業員が不足しているが、高性能林業機械を積極的に導入するなどして今後も進めていきたい。

(委員)

林業の採算性の向上や素材価格を高めるためにブランド化や、市営造林に多い有節材に対して付加価値を高めるような施策が必要でないか。

(事務局)

市営造林からは無節材はあまり採れない。有節材であっても相応の利用方法を検討し、価値を高めるような取組を行っていきたい。

(会長)

森と市民をつなぐ拠点施設について意見はないか。

(委員)

廃校を利用する取組は良いものであると思う。また木育スペースについてもプロポーザルを導入するなど積極的な姿勢がうかがえる。

人工林面積について現在90年生以上の面積が前回と比較して急増しているが何故か。

(事務局)

10年前に80年生以上だった面積が、大きな変化無く、全て現在の90年生以上の面積へ計上されているためである。

(委員)

90年生の人工林であるとかかなり太く、良い材がとれると思われる。積極的に利活用してほしい。今までの材は間伐材がメインであったためか、市産材は有節材が多くあると感じていた。住宅メーカーは有節材を敬遠するような傾向があるので、印象を変えるなどしてユーザーに金沢産材をアピールする企画があれば良いと思う。

(委員)

製品と素材価格推移について、比較しているのは間伐由来の有節の素材と、無節材の製品を比較しているのか。

(事務局)

このグラフの素材価格とは木材市場に出品されている丸太を計上している。間伐由来であっても良い材だけである。実際に製品になる丸太との比較となるグラフとなっている。

(委員)

「木を活かす」の内容について、住宅用構造材以外に手で持って帰れるような小さな木製品などの商品開発が無いのか。このような業界との関係性確保は出来ないのか。

(事務局)

次議題で詳細に説明させていただく。様々な業界との関係性確保は森と市民をつなぐ拠点施設の利用方針の一つであるため今後進めていきたいと思う。人口が減っている中で住宅用構造材以外の用途に活路を見出すのは必要な施策であると思う。

事務局より説明

(3) 森と市民をつなぐ拠点施設の活用について

(会長)

議題3について意見はないか。

(委員)

幼児・中学生など今までなかった層への幅広いアプローチとなっており良いと思う。さらに触れる機会の少ない林業分野の問題意識発信など楽しい体験以外で問題提起や自身で考えるきっかけにつながる施設になると良い。

(委員)

子どもだけでなく子どもを連れてくる親の層を誘導するような木工作品を買ったりできる道の駅的な販売スペースがあると良い。

(委員)

個人だけでなく家族連れや団体利用の促進も図るべきであると思う。

この施設は常に利用できる施設となるのか。それともイベント開催日のみ開館といった開館が限定されたものになるのか

(事務局)

休館日はあるが、職員が常駐し常に利用できる施設となる予定である。しかし木工用のスペースの利用については、刃物等への安全性確保が必要であるといった観点から事前予約制といった制限を設ける必要があると考えている。

またワークショップの主催者側への会場提供としての利用が進めばよいと思う。

(委員)

この施設に大いに期待している。可能であれば周辺住民である高齢者の生活の知恵を取り込むような地域と密接にかかわるような運営も検討してほしい。

(委員)

新生児へ誕生祝い品を送るとのことであるが、子どもだけでなく母親の層へのプレゼントも検討してほしい。金沢産でできると一層よいと思う。

(委員)

施設の開館を楽しみにしている。施設の用途のうち、森林所有者への相続登記支援として司法書士や土地家屋調査士による相談窓口を例示しているが、税理士も追加してほしい。

(委員)

参加するだけの受け身のイベントではなく、活動場所の提供となるため活発な企画提案をできる場所としての運用が期待できる。しかし、大学生や高校生はなかなか呼び込むことが難しいので、呼び込むためのアプローチを別に持った方がよいと思う。

(委員)

金沢市は木の文化都市や金澤町家など様々な木造建築がある。新旧建築技法による木材の活用技術・製品の情報発信は重要だと思うので、木が最終的にどのようにして使われているかを周知するために、職人大学校の講師を招き、ここで木工工作などワークイベントができると良いと思う。

建築物や雑貨以外にも家具なども検討してほしい。また、他県の木工工作が盛んな地域と交流する機会を持てると良いかもしれない。

(委員)

木育ルームが一番注目を浴びると思う。そういったコンセプトの施設は近年県内・全国で多数建築されているが、大規模な施設になるほどアスレチック的な運用になっている。はたしてそれが木育になるのかどうかを考えて、木育ルームの内容を検討してほしい。

これだけの施設を運営するのに何名の職員を配置する予定か。

(事務局)

職員の配置については予算のこともあり関係各課と協議中のため明言は出来ない。

木育ルームの整備についてはプロポーザル方式で選定委員と共に決めていきたい。選定委員には本会の委員から幼児教育、ホリスティックデザイン、木材利用の3分野で3名の専門家に入ってもらっている。

(委員)

良い施設であると思う。木は触って楽しむというのが一番であると思う、なるべくそれを考慮してほしい。また館内だけではなく、ドローン空撮など現地森林を活かして中高生を巻き込むようなものであればよいと思う。

最近は大學生や高校生から林業関連の就職相談を受けることが多いが、どこに相談したらよいかわからない。森林所有者以外でも就職相談窓口として対応してほしいと思う。

(委員)

郊外に施設があるのは良いと思うが、もう少し街中にも発信できるような取組がほしい。例えば街中の施設であっても、森林施設の紹介パンフがあつたりする。インバウンド向けなど市民のみならず様々な人が訪れるようにしてほしい。

(委員)

建物本体も大切であるが、周辺にある川や果樹園なども含め景観的にも良い立地であると思う。自然環境や周辺その他施設とも連携した取組ができる良い施設運営となってほしい。

(会長)

議題はこれで最後となるが、他に意見は無いか。

(委員)

森林の管理ができていないと回答した森林所有者の割合が8割を占めていることに驚いている。こういった要因が考えられるのか。

(事務局)

世代交代が大きな要因であると考えます。若い世代は山間地に居住していない人が多く、所有する森林の場所が知らず、森林へ行くことが無いため森林への興味が薄れ、管理を行わなくなっているのだと考えられます。

(委員)

森林の管理不足はクマの出没増加など様々な問題の発生原因となるため、対策がいつか必要になると思われる。

(委員)

市営造林の主伐後はどのように森づくりを進めていくつもりか。

(事務局)

再造林は100%を目指している。植栽する樹種などは基本的に地権者の意向を聞いたうえで地権者へ委ねることになる。市としては地権者の要望に応えるような制度設計としていきたい。

以上